

熊本城 復興に向けて

〈9〉明治天皇の熊本城行幸

明治35年(1902)11月、熊本での陸軍特別大演習を天覧するため、二度目の熊本行幸(天皇が外出されること)がありました。明治5年(1872)以来、30年ぶりの行幸でした。

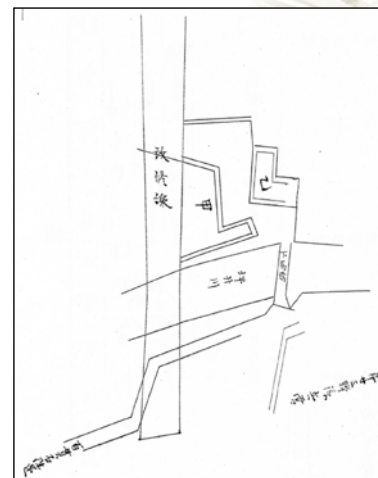
この時の行幸は、長府駅(山口県)から熊本駅まで鉄道移動でした。熊本駅到着は11月11日午後4時55分で、軍楽隊がプラットホームに整列、演奏してお迎えしました。

熊本駅からは馬車で移動され、祇園橋を渡って細工町・鍛冶屋町・古川町、白川沿いの紺屋今町・新鍛冶屋町を経て下通四丁目角から現在の花畑公園周辺にあった師団の第二十三連隊南側を通り、行幸橋を渡って城内に入られました。熊本城への入口となる行幸橋には、行幸をお迎えするために奉迎門が建てられました。これは高さ70尺(約21m)・幅8間(約14m)の壮麗なものだったそうです。行幸橋を渡った後は、行幸坂を通して熊本城本丸の天守台の東側にあった第六師団(陸軍)の大本営へ入られました。師団の大本営は、この行幸中に天皇が滞在される行在所となっていました。

行幸橋・行幸坂はこの行幸のために整備されたものです。もとは、行幸橋は下馬橋、行幸坂は南坂と呼ばれていました。南坂は傾斜が急な坂だったので、傾斜をゆるやかにして馬車が通やすくなるための造成工事が行われました。この工事は高いところで26尺(約8m)の盛土が必要となる大掛かりなもので、大量の土や石が必要でした。そのため熊本県知事は、「熊本城内で支障のない場所の石垣とその内部の土石を盛土用に使わせてほしい」と陸軍へ願い出ています。これに対し、陸軍は行幸坂・行幸橋の改修予定を示した図の「甲」部分の石垣(馬具櫓の向かい側)とその内部の土石の引渡しを認めています。そして、工事が行われた行幸坂から、直線的に市街地へ向かうことができるように坪井川を渡る橋の架け替えも行いました。当時、下馬橋から坂へ向かうには屈曲した



▲明治の終わりから大正中頃と推定される、行幸坂の写真(着色)の絵葉書※「御幸坂の桜花(其三)」熊本市歴史文書資料室所蔵



▶ 第六師団(陸軍)提出書類にある、行幸橋・行幸坂の改修予定を示した図(図中に縦断している道が行幸坂と行幸橋の改修予定) ※防衛省防衛研究所蔵

狭い通路を通らなければならず、馬車が通るには不便でしたので、下馬橋を撤去して行幸坂の延長に新たに橋を架け直し、これが行幸橋となりました。

なお、行幸坂に桜が植えられたのは行幸の目的となった陸軍大演習を記念するためでした。以来、行幸坂は現在も、桜の名所として親しまれています。